

# 結城の町並みと結城紬



(表紙写真提供：結城市)

結城市は、鎌倉時代に結城朝光氏<sup>ともみつ</sup>が初代当主となって以降、18代にわたり約400年間統治されたまちであり、関東でも有数の歴史ある城下町として知られています。

結城家は、奈良時代から献上品として朝廷に納められていた「常陸紬」（現結城紬）を代々保護・育成し、室町時代には、結城紬が幕府への献上品となったことで、全国的にもその名が知られるようになりました。

「結城紬」と呼ばれるようになった時期は定かではありませんが、結城の名家・結城家の本拠地であった「結城」という地名を取り、次第に「結城紬」として定着したと言われています。

結城紬は丈夫で軽く、着心地の良さが特徴です。この魅力を古代から現代まで伝えてきたのは、職人たちの熱き想いと繊細な伝統技法でした。

手作業による「糸つむぎ」<sup>かすり</sup>、「拵くくり」<sup>じぼた</sup>、「地機織り」という世界でも類を見ない3つの工程を経て生み出される結城紬は、現在も最高級織物として多くの人を魅了し続けています。

この技術と文化が高く評価され、結城紬は2010年にユネスコ無形文化遺産に登録、日本が世界に誇る伝統的工芸品へと昇華しました。

また、市街地には、明治初期から大正時代にかけて建てられた見世蔵が多く立地し、現在も結城駅通りなどに歴史的な面影が色濃く残っています。

この秋、世界に誇る結城紬の着物を身に纏いながら、歴史ある町並みを散策してみたいかがでしょうか。



◆場所：茨城県結城市北部市街地

◆アクセス：

【電車】：JR水戸線「結城駅」より徒歩1分

◆秋の主なイベント

「第10回 結い市」

2019年10月13日(日)～14日(月)

「第11回 きものday結城」

2019年11月9日(土)～10日(日)